

留 学 報 告 書

記入日:2016年01月27日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部 国際日本学科
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: アデレード大学 現地言語: The University of Adelaide
留学期間	2015年02月～2016年01月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年01月02日
明治大学卒業予定年	2017年03月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	公立
学年暦	1 学期:02月上旬～07月中旬 2 学期:07月下旬～11月下旬 3 学期 (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	25,000人
創立年	1874年

留学費用項目	現地通貨(AUS\$)	円	備考
授業料	\$0	0円	国際日本学部の学費(留学先大学の授業料のみ免除)
宿舍費	\$12,896	1,290,000円	バスルームは共同
食費	\$5000	500,000円	基本的に外食は高い。平均で一食 11～12\$ぐらいかかる。
図書費	\$200	20,000円	
学用品費	\$50	5,000円	
教養娯楽費	\$250	25,000円	
被服費	\$500	50,000円	
医療費	\$0	0円	
保険費	\$1638	163,800円	明治大学がおすすめする保険とアデレード大学に加入するよう求められる保険に入った
渡航旅費	\$3000	300,000円	
雑費	\$1000	100,000円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	\$24,534	2,453,800円	

渡航関連

渡航経路: 往路: 羽田⇒シンガポール⇒シドニー⇒アデレード
復路: アデレード⇒メルボルン⇒シンガポール⇒羽田

渡航費用

チケットの種類	economy
往路	83,730 円
復路	111,930 円
合計	195,660 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

Expedia

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

Village which is one of the accommodations The university of Adelaide provide.

2)部屋の形態

個室

3)住居を探した方法:

大学のホームページ

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私が住んでいた village はとてもきれいでハウスメイトも頼もしく、優しい人だった。でもその分アパート代は高かった。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

ハウスメイトと友達に基本相談していました。大学内にも international student centre がありましたが、あまり頼りなかった。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

寮にテレビがなかったので外からの情報はめったに入ってこなかった。大体は、ハウスメイトや現地の友達に聞いて教えてもらった。町中での犯罪はあまり聞かなかった。また、交通事故も少なかった。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮と大学のインターネット接続は安定していて、繋がらないことはあまりなかった。町でも無料 wifi が接続可能であったので困ることはなかった。しかし、町から出てしまうとほとんど繋がらないのでバスの時間などは事前に調べることをおすすめする。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地に銀行口座を開設して日本から送金してもらった。しかし、送金する際に手数料を取られるので、できれば city bank のような国際的な銀行で口座を開設しておくとういと思う。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

基本的に何でも現地で調達できる。チャイナタウンやセントラルマーケットでは比較的食べ物や調味料を安く手に入れることができる。女の子の場合は生理用品など、好みのものがある場合は持って行くとうい。

卒業後の進路について

1) 進路
就職
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
18 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Anthropology of Everyday life	文化人類学
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	1st semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル
授業時間数	1 週間に 60 分が 3 回
担当教授	Dr. Georgina Drew
授業内容	人間の日常生活に関わる問題(人種、欲求など)を分かりやすい事例を用いて文化人類学と民族学という視点からとらえる。
試験・課題など	Reading materials <Every week> Tutorial presentation Online exam 2000 word essay
感想を自由記入	授業内容が非常に興味深く、分かりやすいので、のめり込みやすかった。アボリジニの文化についても扱っているので Reading materials などは読んでいてとても面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Professional English(ESL) II	英語科目
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	1st semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	1時間のonline lecture 2時間のWorkshop
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Sandra Lyne
授業内容	英語が第一言語ではない大学生が主にビジネスで必要となる書類の書き方を英語習得の一環として学ぶ
試験・課題など	Business letters Literature review and referencing assignment Grammar and Writing test Job Application Assignment Final Examination
感想を自由記入	Business lettersやJob applicationなどの書き方はめったに習う機会がないのでとても為になった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Social Sciences in Australia	社会科学
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	1st semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Dr. Dee Michell
授業内容	現代のオーストラリア社会の構造を階級社会、若者文化、ジェンダー、民族、などの社会問題をテーマに理解を深める
試験・課題など	Critical Discussion Persuasive Argument Take Home Paper
感想を自由記入	毎週オーストラリアの社会問題を扱って授業が行われるのでオーストラリアの社会構造の理解が深まったと思う。また、元首相のジュリア・ギラードが特別ゲストスピーカーとしてジェンダーの問題について話をしにレクチャーに来てくれたことはとても思い出深い。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Culture & Society: Foundations of Anthropology	文化人類学
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	2nd semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Dr Rod Lucas
授業内容	歴史的に発展してきた文化人類学の理論をもとに社会または文化の問題について理解を深める。

試験・課題など	Tutorial presentation Minor essay Final essay
感想を自由記入	前期に取った Anthropology of everyday life よりも内容的には難しくなっていたと思う。この授業では特にパプアニューギニアの原住民の人々の文化に焦点を当てて授業が進められていて毎週の課題として出されていた reading も理論を説明した文献が多く抽象的だったと感じた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Film Studies	映画史
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	2nd semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Dr. Phil Butterss
授業内容	犯罪の映画をテーマに映画撮影の技法やその映画が制作された意図を考える。
試験・課題など	Image Analysis Essay Take-Home Exam
感想を自由記入	国際日本学部の映画史概論をとっていたこともあり、また個人的に映画が好きで受講しようと思った授業だったが、チュートリアルで映画技法や制作意図について意見を述べるのはとても難しいと感じた。とても勉強になることばかりだった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Understanding Criminology	犯罪学
科目設置学部・研究科	Faculty of arts
履修期間	2nd semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Andrew Hope
授業内容	犯罪学の基礎を勉強する。
試験・課題など	Online test essay Take-home examination paper
感想を自由記入	犯罪学を基礎から勉強する授業だったので全く犯罪学の知識がなくても受講できる。アデレードやオーストラリアで今までに起きた事件を使って授業をしていくのでオーストラリア社会への理解が深まったと感じた。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	TOEFL の勉強
4月～7月	出願
8月～9月	選考
10月～12月	留学へ準備
2015年 1月～3月	2 月に渡航 3 月から一学期開始
4月～7月	4 月中旬に 2 週間の中間休み 4 月下旬から 5 月上旬にかけて中間テスト 6 月下旬から 7 月上旬にかけて期末テスト 7 月の中旬から下旬かけて 3 週間の冬休み
8月～9月	8 月から 2 学期 9 月下旬に 2 週間の中間休み
10月～12月	10 月上旬に中間テスト 11 月上旬から中旬にかけて期末テスト 11 月 30 日で協定留学プログラム終了
2016年 1月～3月	帰国 就職活動始め
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	私が留学しようと決めた理由は、学生の間実際に海外に出て日本の外の世界を知り、自分の価値観や見識を広めたいと思ったからです。きっかけは、私が高校生の時に訪れたオーストラリアの学校が国際色豊かで自分もこんな環境で勉強したいと思ったことがきっかけでした。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力はとても大切だとしみじみ思いました。というのも、留学中に話す言葉はほとんど英語です。英語を読み、話しそして聞き取る力がないと何かと不便です。授業にもついていけません。授業外でもレポートが出されたり、膨大な資料を読む課題が出されたりします。留学後に英語が伸びることを期待するのではなく、留学前にいかに英語を磨くかがとても大事なのです。
この留学先を選んだ理由	アデレード大学はオーストラリアの中でも3番目に古い大学で、オーストラリアの主要な大学8校から成る Group of 8 にも名を連ねる、伝統的な大学であるということから、学生としては是非ともアデレード大学で勉強してみたいと思い希望しました。
大学・学生の雰囲気	Hub という勉強スペースは24時間開放されています。そこでは大学生だけでなく高校生なども勉強していました。勉強するにはとても良い場所だと思います。学生は様々な年代の人から構成されています。中には育児が一段落して勉強したくなったから通い始めた学生などもいました。
寮の雰囲気	私の住んでいたアパートのハウスメイトたち(3人)は人付き合いが良い子たちで、時間がある時は、夕食を一緒に作って映画を見ながら食べたり、ある時はサイクリングに行ったりしました。
交友関係	基本的に留学生の友達と遊んだり、ご飯を作ったりしていました。たまに週末のパーティーに誘われて遊びに行ったり、授業で知り合ったオーストラリア人の友達とお昼ごはんを食べに行ったりしました。
困ったこと、大変だったこと	初めての一人暮らしということもあり今までお母さんが代わりにやってくれていたこと、例えば、掃除、洗濯、ご飯の支度なども自分でやらなければならなかったことだったと思います。私の場合は特に勉強に1日を使ってしまうことがしばしばあったので時間を調整するのが大変でした。
学習内容・勉強について	私は特に決まった学問を専攻していたわけではなく、様々な授業を受講しました。チュートリアルというテーマに沿って議論を交わすクラスが必ずどのクラスにもあったのですが、それがとても苦手でした。というのも、学生の言っていることが理解できず、なかなか議論に参加できなかったからです。ですが、根気強く必ず1度は発言するという目標を実践したところ、後期のセメスターではほとんど苦に感じることなく発言できるようになりました。
課題・試験について	最初のセメスターは勉強方法が確立できなかったこともあり、明け方まで課題をしたこともありましたが、自分の興味のある授業の課題だったので終わらせることができた時は達成感でいっぱいでした。

大学外の活動について	ある時は仲の良いお友達の家遊びに行き、またある時は教会でイベントのお手伝いをしました。
留学を志す人へ	留学中とはとにかく貪欲に何事にも嫌と言わずに取り組むことが大切だと思います。というのも新たな自分を発見し、成長につながるきっかけになると思うからです。留学を良いものにするか否かは自分次第です。自分から一歩を踏み出す勇気を持つように心がけてください。

1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中						掃除 or 洗濯	掃除 or 洗濯
	授業	授業	授業	授業	授業	(学校で)自習	(学校で)自習
午後	授業	授業	授業	授業	授業	(学校で)自習	(学校で)自習
	授業	授業	授業	授業	授業	(学校で)自習	(学校で)自習
夕刻	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	友達とご飯	友達とご飯
夜	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	(学校で)自習	友達と映画鑑賞	友達と映画鑑賞

